

令和 8 年度第 2 回 四国中央市環境審議会 議事録

■ 開催日時・場所

令和 8 年 9 月 15 日（火） 13 時 30 分～15 時 15 分

庁舎棟 5 階大会議室

■ 次 第

- 1 開会
- 2 議事
第三次四国中央市環境基本計画の策定について
- 3 報告
令和 7 年度四国中央市の環境測定結果について
- 4 閉会

■ 傍聴人

一般傍聴人 なし、記者 なし

■ 会議風景



■ 出席者

役職名	所属名	氏名	出欠席
委員（会長）	愛媛県地球温暖化防止活動推進センター センター長	日野 伸二	出席
委員（副会長）	愛媛大学大学院農学研究科 教授	高橋 真	出席
委員	東予地方局四国中央保健所 衛生環境課長	白石 和子	出席
委員	愛媛県立土居高等学校 校長	山中 達也	出席
委員	長津小学校 校長	吉岡 佐織	出席
委員	うま農業協同組合 代表理事専務	近藤 善春	出席
委員	愛媛県漁業協同組合川之江支所 支所運営 委員長	三好 猛	出席
委員	宇摩森林組合 代表理事組合長	荻田 耕一	出席
委員	(公社)愛媛県紙パルプ工業会 専務理事	石川 雄一	出席
委員	大王製紙株式会社 生産本部 三島工場 四国業務部 部長	田井野 和也	出席
委員	愛媛製紙株式会社 総務部 部長代理	高松 春光	出席
委員	福助工業株式会社 参事 総務部長 兼 内部統制推進室長	寺尾 太一	出席
事務局	市民部 部長	高橋 博俊	出席
事務局	市民部 生活環境課 課長	真鍋 宏一	出席
事務局	市民部 生活環境課 副課長	川崎 繁俊	出席
事務局	市民部 生活環境課	水田 隆史	出席
事務局	市民部 生活環境課	武村 昂紀	出席
事務局	市民部 生活環境課 課長補佐	佐藤 誠	出席
事務局	市民部 生活環境課	小木曾 俊幸	出席

■ 議事録

1 開会

事務局の進行で開会。

開会にあたり、会長よりあいさつ。

四国中央市環境審議会条例の規定に基づき、議事進行は会長に引き継がれた。議事に入る前に、事務局より、本日は委員 12 名中 12 名が出席しており、審議会が成立していること、また傍聴者及び記者はいないことが報告された。

前回欠席していた委員からあいさつがあり、会長より、本日の議題は第三次四国中央市環境基本計画の策定についてであり、計画策定の途中段階であるため、委員から意見を伺いたい旨の説明があった。続いて、事務局に対し資料説明が求められた。

2 議事

(1) 第三次四国中央市環境基本計画の策定について

【事務局から説明】

- ・ 第 1 回委員会・審議会の振り返り
- ・ 第 1 章 基本的事項
- ・ 第 2 章 四国中央市を取り巻く現状と課題
- ・ 第 3 章 目指す将来像
- ・ アンケート速報について

【質疑応答】

(会長)

現行計画ではどのような将来像が掲げられていたのか。

(事務局)

現行計画における望ましい将来の環境像は、「次世代を担う若者・子どもたちと豊かな自然を大切にす
るまち 四国中央市」であり、副題として「持続可能な社会の構築を目指して」を掲げていた。次世代を担う子どもたちに豊かな自然を残し、大切にしていくことを基本的な方向性としている。

(会長)

現行計画の将来像はキャッチフレーズがやや長い印象であることを踏まえ、今回の第三次計画におけるキャッチフレーズのあり方について、意見はあるか。

(委員)

キャッチフレーズとしては文言が長く、初めて見た人に伝わりにくい印象があるため、よりコンパクトで覚えやすい表現にしてはどうか。また、末尾に「四国中央市」を付けることが必須であるか。

(事務局)

他自治体の環境基本計画等においても、目指す環境像の末尾に自治体名を入れ、自分たちのまちの将来像であることが分かるようにしている例が多い。そのため、「四国中央市」という名称を入れる方向で考えているが、前段の文言については、委員からの意見を踏まえ、より覚えやすく分かりやすい表現となるよう検討したい。

(委員)

四国中央市は市域の約 4 分の 3 を森林が占めており、森林面積の大きさをより前面に出してはどうか。例えば、市内には約 3 万 3,000 ヘクタールの森林があり、小豆島 2 つ分に相当する面積であることや、森林による CO₂吸収量を数値で示すことができれば、本市の環境資源として森林を具体的にアピールできるのではないかと。

(会長)

森林をより前面に出してアピールすべきとの意見があった。他に意見はあるか。

(委員)

キャッチフレーズについては、候補案がやや長い印象である。また、「つなぐ」という言葉は後ろ向きの印象であるため、候補案にある「守り育む」という表現の方が前向きで分かりやすいのではないかと。例えば、「豊かな環境を守り育み、幸せがめぐるまち四国中央市」のように、より短くコンパクトにまとめることも一案である。

(事務局)

「つなぐ」という表現については、庁内検討委員会においても、より前向きなフレーズにしてはどうかとの意見があった。「つなぐ」は次世代へ引き継ぐという意味合いがある一方、「育む」は環境の価値や地域資源をさらに高め、付加価値を加えながら未来につなげていくという前向きな意思を込めることができるため、事務局としても一つの案として検討している。

(委員)

豊かな環境や地域資源が守られ、次世代へ引き継がれていくことで、結果として持続可能なまちにつながると考えられるため、キャッチフレーズの中であえて「持続可能なまち」という言葉を用いる必要はないのではないかと。

(委員)

候補案ではいずれも「環境資源」という言葉が用いられている。総合計画における将来像のキーワードを踏襲していると理解しているが、本計画における将来像に必ず入れる必要があるのか。「環境」と「資源」は本来異なる概念でもあるため、「環境資源」という表現にこだわらないのであれば、「環境」という言葉を中心に、よりコンパクトな表現としてはどうか。

(委員)

キャッチフレーズの中に句読点が入っている点について、やや違和感がある。

(会長)

複数の候補案がある中で、今回示された候補案を選定した理由はあるか。

(事務局)

総合計画で「環境資源」という言葉を使用していることを踏まえ、本市が工業都市でありながら自然を含む豊かな環境を有していることや、循環をイメージできる表現とすることを意識した。各案はいずれも近いニュアンスであり、特定の案を明確な理由で選定したものではないが、ひらがなを用いることで柔らかい印象となる点などを考慮した。一方で、「幸せがめぐる」と「持続可能なまち」は意味合いが重なる部分もあり、委員からの意見を踏まえると、テンポやバランスについては再検討が必要であると考えている。

(委員)

環境・経済・社会の三側面を踏まえるのであれば、キャッチフレーズにも経済面の要素が入るとよいのではないかと。経済面を分かりやすく表現することは難しいが、案 1 の「未来への価値」という表現は、

環境価値だけでなく、産業や経済的な価値も連想できるため、そのような要素を含めてもよいのではないか。キャッチフレーズの長さについては、個人的には特に気にならない。

（委員）

「環境資源」という言葉の定義が分かりにくく、より包括的な「環境」という表現でも良いのではないか。また、「持続可能なまち」という表現についても、計画全体で環境・経済・社会の調和が既に前提とされているため、あえて記載しなくてもよいのではないか。

（会長）

本日出された意見を踏まえ、事務局でキャッチフレーズの表現を精査することとする。

【事務局から説明】

- ・ 第3章 目指す将来像と基本目標

【質疑応答】

（会長）

前計画の基本目標7項目が、今回の案では5項目に整理・統合されていることについて、意見はあるか。

（委員）

前計画から今回案への整理・統合については、特に違和感はない。基本目標1の「環境負荷の少ない交通や暮らしへの転換」という表現について、「交通」という言葉に少し違和感がある。関連する施策との対応関係が見えにくく、「交通」を強調する意図が伝わりにくい。

（事務局）

交通分野については、現行計画でも温暖化対策の一つとして位置付けており、今後もEV・ハイブリッド車等の普及や公用車への導入など、環境負荷の少ない交通への転換を進めていく考えである。

（会長）

交通対策には、公共交通の利用促進と、車両自体のEV化・高効率化の両面がある。

（委員）

前計画から今回案への移行はスムーズに整理されていると感じた。基本目標4については、「人」が生活や暮らしを指すことが分かるような表現にすると、より理解しやすいのではないか。

（委員）

基本目標1について、「美しい地球環境」という表現だけでは、脱炭素や気候変動対策の内容が伝わりにくいため、表現を見直してはどうか。

（会長）

基本目標1の表現について、脱炭素や気候変動対策とのつながりが分かりにくいとの意見があった。他に意見はあるか。

（委員）

基本目標全体について、前計画よりも抽象度が高まり、内容が分かりにくくなっているのではないか。

（委員）

基本目標の達成を今後10年間目指していくという理解でよいのか。

（事務局）

将来像は計画全体の方向性を示すものであり、基本目標はその実現に向けた分野ごとの目標として設定している。

(委員)

環境基本計画は、生活環境課だけで取り組むものなのか。

(事務局)

環境基本計画は、行政だけでなく、市民・事業者と一体となって取り組む理念的な計画である。

(委員)

基本目標 1～5 の表現が全体的に長く、市民に分かりにくいのではないかと。より簡素な表現にしてはどうか。

(委員)

基本目標 1 の「環境負荷の少ない交通」という表現について、交通に限らず、まちづくりや都市計画も含めた表現とした方が、基本目標全体に沿うのではないかと。

(事務局)

委員から意見のあった森林による二酸化炭素吸収源についても、基本目標 1 に位置付けてはどうか。

(委員)

森林による二酸化炭素吸収量などを具体的な数値で示すことで、市民に分かりやすく伝わるかと考える。

(会長)

基本目標は包括的な表現となるため抽象度が高くなる面もあるが、本日出された意見を踏まえ、事務局で表現を再検討する方針でよいかと。

(委員一同)

意見なし。

(会長)

それでは、本日出された意見を反映し、キャッチフレーズ及び基本目標の表現を再整理した上で、次回改めて示す方向で進める。

【事務局から説明】

- ・ 第4章 施策の展開
- ・ 第5章 リーディングプロジェクト
- ・ 第6章 推進体制
- ・ 参考資料 策定に向けた課題整理

【質疑応答】

(会長)

施策の展開及びリーディングプロジェクトについて、事務局から新規・強化とされた取組を中心に説明があったことを踏まえ、施策の方向性等について何か意見はあるかと。

(委員)

計画の内容が広範囲にわたるため、市民に分かりやすい表現とすることが重要である。自然環境の保全、水・大気環境、ごみの資源化などについて、現状や課題を具体的な数値で示し、5年後、10年後の目標を明確にすることで、取組の方向性が伝わりやすくなるのではないかと。

(会長)

数値目標の設定について、事務局はどのように考えているかと。

（事務局）

数値目標については、資料 17 ページの成果指標において、現状値と目標値を設定する予定である。CO₂ 排出量などについても、関連計画との整合を図りながら数値で見える化し、今後の評価にも活用していく方針である。

（会長）

施策の方向性について、各委員から順番に意見をいただけますでしょうか。

（委員）

資料 13 ページのプラスチック資源循環について、分別ルールや回収体制の整備とあるが、今後の回収体制の変更を前提としているのか。また、資料 15 ページの基本目標 4 については、「新たな環境リスク」という表現で大きくまとめられている印象があるため、内容をもう少し具体的に整理してはどうか。

（事務局）

プラスチックごみについては、国の制度上も分別・資源化が努力義務とされていることから、今後、市民に分別への協力を求めながら資源化を進めていきたい。収集体制については、現状の体制に加え、必要な対応を検討していく。また、「新たな環境リスク」については、主に水環境に関する内容を想定している。水質基準等への対応を含め、水環境分野における新たな課題への対策として整理しているが、表現が抽象的であるため、記載内容については分かりやすく整理したい。

（委員）

市民目線から、基本目標 1 の自転車利用環境については、坂道が多い地域特性や高齢者の利用を踏まえ、施策の検討が必要ではないか。また、基本目標 4 の空き家対策については、地域資源として活用を促進するとあるが、具体的にどのような支援や取組を想定しているのか分かりやすく示す必要がある。さらに、基本目標 3 の自然資本を活用した地域活性化について、付加価値の高い体験型コンテンツとして、今後どのような展開を想定しているのか。

（委員）

基本目標 1 の脱炭素型交通手段への転換について、鉄道や路線バスなど公共交通機関が不便な現状を踏まえ、交通機関の充実に向けてどのように取り組むのか。また、基本目標 2 のプラスチック資源循環について、分別・回収後に対応できる施設や処理体制についてどうする方針なのか。さらに、基本目標 4 の「新たな環境リスク」については、災害廃棄物への対応も含めて検討する必要があるのではないか。成果指標については、定量的に把握できるものと定性的に評価するものがあると考えられるため、「一人ひとりの幸せ」などをどのように評価するのか。加えて、県計画で位置付けられている海洋ごみについて、市の計画でどのように扱うのか。

（会長）

委員から多岐にわたる意見が出されたため、事務局に対し、現時点で回答可能な事項について説明してもらいたい。

（事務局）

プラスチックごみの分別・回収後の処理体制については、リサイクル施設及び可燃ごみ処理施設の建て替え計画を進めており、リサイクル施設は令和 14 年の竣工を予定している。今後、プラスチックごみの分別について市民に協力を求めるとともに、回収したプラスチックごみは中間処理を行い、民間の再資源化施設へ引き渡すことを想定している。災害廃棄物については、別途計画が策定されているため、当該計画に基づき対応していく。脱炭素型交通については、今年度新たに設置された公共交通課とも連携しながら、交通政策の中で取り組める脱炭素施策を検討していきたい。また、行政自らの取組として、

公用車の脱炭素化についても関係部局と連携しながら進めていく必要がある。成果指標については、定量的に把握できるものと、数値化が難しいものがあるため、各施策に応じた適切な指標を今後検討していく。海洋ごみについては、広域的な課題であることから、県との連携も含めて扱いを検討していきたい。

(会長)

環境基本計画だけでなく、他の関連計画とも整合を図りながら検討を進めていってもらいたい。

(委員)

森林による CO₂吸収については、J クレジットの取組のように、森林管理による効果を数値化できる事例がある。市内の森林における CO₂吸収量や経済的価値を示す際には、こうした取組を参考にしながら、市民に分かりやすく示してはどうか。

(委員)

基本目標 3 について、人口減少の影響も踏まえながら計画を進めていく必要があるのではないかな。

(委員)

温暖化等により既に顕在化しているリスクに対して、市としてどのように対応しているのかが市民に見えることも重要である。関係部局との連携も含め、リスクと対応の見える化を図ってはどうか。

(委員)

営農型や遊休地を活用した太陽光発電の導入は脱炭素の観点から必要である一方、景観や住環境への影響にも配慮する必要があるのではないかな。

(委員)

プラスチック資源循環を進めるにあたっては、再資源化しやすいよう、単一素材で不純物の少ない形で回収できる仕組みが重要である。今後、効果的に再資源化できるものをどのように回収していくかについても議論を深めてはどうか。

(委員)

国の環境政策や新たな課題が多く示されている中で、それらが今回の基本目標や施策にどのように反映されているのか、もう少し分かりやすく整理するとよいのではないかな。ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー、30by30、プラスチック資源循環など、国の動向との関係を意識して計画に反映してはどうか。

(委員)

基本目標はよく整理されているが、子どもなどにも分かりやすく、取り組みやすい内容にすることも必要ではないかな。

(事務局)

第三次環境基本計画については、子どもにも分かりやすく伝えるため、子ども向け概要版の作成を予定している。計画の内容を身近に感じてもらえるよう、学校等とも連携しながら環境教育にもつなげていきたい。

(会長)

本日の意見では、抽象的な表現よりも、より分かりやすく簡潔な表現にしてほしいという意見が多かった。委員から出された意見を踏まえ、引き続き素案の作成を進めてもらいたい。

3 報告

(1) 令和7年度四国中央市の環境測定結果について

【事務局から説明】

- ・ 四国中央市の環境

【質疑応答】

質問・意見無し

議事終了後、進行を事務局に交代した。

4 閉会

事務局から、次回の審議会は10月下旬頃の開催を予定しており、日程が決まり次第、改めて案内する旨の事務連絡を行い閉会した。

以上